

はないか。

- ・ 学校経営に関して、校長、保護者、行政の3者が一体となって現場の先生を支援する体制が望まれる。
- ・ 外部と連携する学校づくりが今後の課題だと思う。
- ・ 現実に学校の先生が人間的にどうかと思うところがある。先生が、授業中の子どもの動きに対応しきれないということもあると思う。
- ・ 先生が問題児の先送りをしているのではないだろうか。
- ・ 都と区が、いじめ問題の対応や考え方について、学校を通して保護者に配布したそうだが、同じものを、回覧板を通して一般区民に知らせる必要もあるのではないか。
- ・ 学校の先生が、児童が5年生になった時に行う区内の一斉テストを非常に気にして、春休みに異常な量の宿題が出る。その結果上がった点数が本当の学力と言えるのだろうか。
- ・ 学校は点数を上げるという役割もあるが、社会の中での生活力を育てていくといったことも重要である。
- ・ 学校の選択制により先生を募って学校を選んだはずなのに、入学後に先生が異動してしまう例があると聞くが、それではあまり意味がないのではないか。
- ・ ある中学では、1年の時の部活が2年生になったら無くなってしまったケースがある。その場合子どもは他の部活に行きにくいので、なるべく部活は存続させて欲しい。
- ・ 今年から学校の敷地内は全校禁煙になったというが、運動会などの時に学内でタバコが吸えないため、学校の敷地外に吸い殻が落ちていて迷惑だという話を聞いている。タバコを吸う先生はどうしているのか。
- ・ 学校内ではアルコールが全て禁止になったというが、放課後の遅い時間帯での教員同士の交流のためには、一部アルコールがあっても良い面があるのではないか。
- ・ 家庭訪問の時間がなくなっていると聞く。いじめられている子やいじめている子の家庭訪問が必要だと思うが、それができなくなっているのではないか。

(座長)

これまでの意見は外から見た目の話だが、区側で何か訂正などがあれば言ってほしい。

(区回答)

学校の全面禁煙に関して

今は全ての学校が全面禁煙になっているわけではない。荒川区は生涯健康都市ということで、なるべく早期に敷地内禁煙を進めている。行事の場合は目立たないところに喫煙所を設けている。

学力向上に関して

荒川区の場合は、積み上げが必要な教科を特に重点的・継続的に教えている。また、成績の公開を行い、次のプランにつなげている。点数上げることにやっきになる先生がいるのであれば、意識改革を進めていきたい。

先生の移動に関して

今は原則3年以上6年未満で移動することとなっている。

ステップ3 「学校の教育力の向上策」について考えよう！（対応策について）

コーディネーターより問題点の意見のまとめがなされた。そこで、 管理者への期待・方策、 先生への期待・方策、 管理者・先生・教育委員会の連携、の3点について話してはどうかといった提案がなされ、主にそれらの点について話していくこととなった。

- ・ 学校では、廊下に立たせると体罰になってしまうと思うが、その程度で体罰というのはおかしいのではないか。
- ・ 学校の先生が自由に指導することが良いと思うが、自由度を増した場合、指導力を発揮できる先生が多くないのではないか。
- ・ 学校の人事評価制度はどうなっているのか。教員の目標管理、教師同士の相互評価や、管理者評価があるべきではないか。加えて個人の評価と並行して、学校としてのチーム全体の評価を評価制度に取り込めないかと思う。
- ・ 先生という職業を選んだのだから、もっと責任を持って教えるべきだと思う。いわゆる愛、教員の職業意識を持たせ、愛情をもって子どもに接するようになれば良い。
- ・ 学校の先生にも外部評価が必要ではないか。
- ・ 小学校の先生の中には、特定の教科に関して理解が足りない部分がある人がいると思う。小学校でも特定の科目に、教科担当を持たせるのも良いのではないか。
- ・ 教育の場で、団塊の世代等のボランティア活用や協力体制の仕組みをつくってはどうか。
- ・ 品川区が行っているように、6・3・3・4制を見直すということも考える必要があるのではないか。
- ・ 学校の授業の中で社会経験を積んだ方に教壇に立ってもらい、話をしてもらうことを取り入れてはどうか。
- ・ 学校側は登校拒否等に対してどのような対応をしたら良いのか分からないのではないか。校長からは教育委員会には行かないでくれと言われてたりした。
- ・ 地域の力を借りて、ボランティアで部活の指導をしてもらうなど、地域を巻き込んでやっていけたら良いのではないかと思う。地域にはいろいろな力があるのもっと活用したら良いと思う。
- ・ 現状では、学校は何かあった場合に対応するのは副校長の場合が多く、副校長は非常に忙しくなっている。専門的に地域のことに対応できるような、副校長2人制度というのができれば良いのではないか。

(区回答)

人事考課制度について

実際人事考課制度ができて7年経ち、先生の間にもようやく定着してきており、上ばかり見ている教師は排除するような仕組みとなっている。この制度は教員の能力開発のための制度としてやっており、教員を序列化するものではない。

学校評価について

区では外部から評価してもらうことにも取り組んでいる。また、生徒による授業の評価の取り組みを始めている。

6・3・3・4制について

荒川区でも中高一貫、また幼小中一貫でやることに取り組んでいる。

特別支援教育について

来年度からなくなるということではない。盲学校やろう学校などが特別支援学校になり、また小中学校にある教室も特別支援教室ということになる。ただし、すべての障害を持った子どもが特別支援教室に入るというわけではない。

実際、軽度の発達障害の子どもが小学校にいるのは事実で、そういう子どもにきめ細かな教育を行うのが、特別支援教育ということになる。また、それ以外に子どもの状況を把握するために、スクールカウンセラーの派遣も行っている。

最後に座長からまとめと意見が述べられた。

- ・ これまでの意見を聞くと、教室の秩序を取り戻したいということになるのではないかと思う。一つの方策として、教室に教壇を設けるといことが解決策になるのではないか。先生が教壇に立つと、自分がそういう立場なのだという意識になり、また、子どもたちは、先生を見上げることになれば、教わっているという意識になるのではないだろうか。

ステップ4 今日の議論を確認しよう

コーディネーターより本日の意見のまとめがなされた。

ステップ5 第5回分科会の進め方について考えよう

第5回の分科会について、予定どおり、「地域の教育力の向上」のテーマで話すことになった。

以上